

第 一 題 言

聖 德 記 念 繪 畫 館

明治大帝に於て我々は最も偉大なる帝王的の人格を感受した、大帝崩御の後に記念建造物に關し種々なる案があつたが、本年完成された神宮外苑の御造營は最も適切なものにして恐らく國民一般に満足してをる處である。

記念繪畫館は日本人の設計になつたものにしては近代的な最も雄偉なる代表建築である。

設計は小林正紹氏の懸賞應募に原案を執り、佐野利器博士、高橋貞太郎、小林政一氏等により完成された、工事は殆んど大倉土木株式會社が施工したもので設計施工も殆んど間然する處なく、使用せられた材料設備に於ても記録して傳ふべきもの多く、外苑道路工事も俱に實に後代に範たるものである。

壁畫全部が納められた暁にはまことに明治大帝の御遺徳を偲び奉る好個の神聖公園たるべきものである。

本號に記念繪畫館の外容、内觀の一部を傳ふに當り編者は特に敬虔の念を以て稿を進むるものである。

佐 野 利 器 博 士 曰 く

聖德記念繪畫館は普通のアートギャラリーと異り、明治時代の帝徳を史的に表現するものであるから、歐風を脱化した日本の近代的な建築物として最も代表的なものとした。

記念的建造物としては實に東洋第一のもので外劃配置の雄大なるを、内部中央廣間の大理石柱、丸天井等の壯麗なるは大壁畫と相對して崇高の感を抱かしむるものである。

施工上の特色は壁の内部に防濕裝置を施し、防火、煖房等も最も注意を拂はれ、石材其他の材料も特種のものを使用して各々特色を發揮してをる。